

ポジティブステレオタイプと表出者の性別が差別知覚に影響を与えるプロセスについて

1230453 小林 杏珠

指導教員 三船恒裕

研究背景

ポジティブステレオタイプは、ターゲットにネガティブな影響を与えることがわかってきている。Siy&Cheryan (2018) では、ポジティブステレオタイプを表出されることでターゲットが表出者を差別的であるととらえるプロセスを検討した。ポジティブステレオタイプを表出されると、ターゲットは脱個人化の感覚を通してネガティブステレオタイプ知覚を起し、さらにネガティブステレオタイプ知覚を起すことでターゲットを差別的であるとみなすプロセスである。森永ら (2018) では、このプロセスの再試を行ったが用いられた2つのシナリオで結果が異なった。この要因として、ポジティブステレオタイプ表出者の性別の統制が行われていなかったことが考えられる。

研究目的

この研究では、ポジティブステレオタイプ表出者の性別の統制を行い次の仮説の検証を行う。

仮説1：脱個人化の感覚がネガティブステレオタイプ知覚を引き起こすのは、ポジティブステレオタイプ表出者が男性の時のみである。

仮説2：ネガティブステレオタイプ知覚が差別知覚を引き起こすのはポジティブステレオタイプ表出者が女性の時のみである。

仮説3：ポジティブステレオタイプ表出者が男性の時に構造方程式モデリングにおいて Siy & Cheryan (2016) で示されたプロセスが再現される。

分析結果

ポジティブステレオタイプの有無とポジティブステレオタイプ表出者の2要因分散分析を行った結果、チラシシナリオにおいて、①ネガティブステレオタイプ知覚②脱個人化の感覚③差別知覚ともにポジティブステレオタイプの有無の主効果のみ示された。

グループシナリオにおいては、①ネガティブステレオタイプ知覚について、ポジティブステレオタイプの有無の主効果も見られなかった。

構造方程式モデリングで、ポジティブステレオタイプが差別知覚を引き起こすプロセスの検討を行った結果、すべての条件において森永ら (2018) と共通していたのは、ポジティブステレオタイプが脱個人化の感覚を通して差別知覚を引き起こすというプロセスのみであった。

考察・結論

ポジティブステレオタイプ表出者の性別は①ネガティブステレオタイプ知覚②脱個人化の感覚③差別知覚いずれにも影響しないことが示された。また、構造方程式モデリングの結果、仮説はすべて検証されなかった。よって、森永ら (2018) でシナリオにより結果の違いが示されたのは、ポジティブステレオタイプ表出者の性別が要因ではない。